

1 単 元 世界に歩みだした日本

2 教科の目標

不平等な条約が改正されていく流れを考える。(社会的な思考・判断・表現)

3 ICT活用の観点

思考や理解を深める提示

4 活用したICT

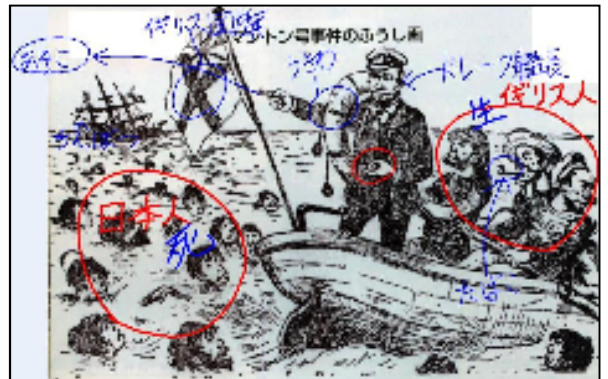
電子黒板セット

5 ICT活用のポイント

子どもが課題について考える場面で、電子黒板の書き込み機能や拡大機能を活用し、ポイントを押さえて学習を進め、思考力の向上をねらう。

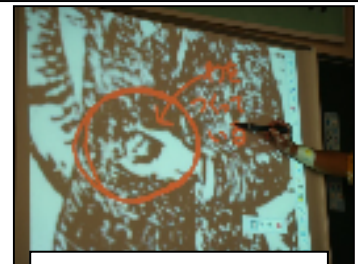
6 実践の様子

まず、ノルマントン号事件の風刺画(資料①)を提示し、子どもたちに「船長がどこを指差して、何と言っていると思いますか?」と発問した。子どもたちからは、「あそこまで泳げば助かるぞ。」や「頑張るんだ。」などの意見が出た。そこで、拡大機能を活用して左手に注目させ(資料②)、船長は「助けるにはお金が必要である。」と言っていることに気付かせた。さらに、書き込み機能も活用して、奥で船が沈没していることや、助かったのはイギリス人ばかりで、日本人は全員亡くなったことを読み取った。



資料①ノルマントン号事件の風刺画(書き込み済み)

次に、この事件についてどう思うかを考えさせた。ほとんどの子どもたちから、こちらがねらいとする日本人を見殺しにして、自分たち(イギリス人)だけが助かることに対する怒りの意見が出た。



資料②左手の拡大図

最後に、この船長に対して行われた裁判の判決を予想させた。多く子どもが、無期懲役や、終身刑、死刑と非常に重い判決を予想した。しかし、実際は、懲役3か月程度の罪であったことを話すと、「なんでそんなに軽いのか?」「絶対おかしい!」との意見が出た。(資料③)

当時イギリスとの間に領事裁判権を認めるという不平等条約があったことを復習すると、子どもたちは「そんなおかしい条約はなくすべき。」「イギリスだけ認めるのはおかしい。」との意見が出た。当時の人も同じ考えで、その中で、陸奥宗光がこの不平等条約をなくすために尽力したことを確認した。



資料③発表しようとする子どもたち

授業の終わりには、子どもたちから、「どうやってイギリスを説得したの?」、「お金を払ったの?」、「どのくらい時間がかかったの?」などの意欲あふれる質問が数多く出た。

7 成果と課題

- 電子黒板の拡大機能でポイントとなる部分を提示することにより、風刺画に込められた本当の意味に気付かせることができた。
- 電子黒板に書き込む際、線の色・太さまで考えずに実践したため、少し見にくい書き込みになってしまった。書き込み計画を練って実践を進めていきたい。